

報告事項

平成 26 年度 事業報告

概要

一般の経済情勢は、景気の上向き傾向が見えてはいるものの、国・地方を通じた厳しい財政状況もあり、シルバー人材センターを取り巻く環境は、依然として厳しい状況にあります。

このような中で本センターは、市当局をはじめ関係団体、会員の皆様のご理解ご支援をいただきながら、平成 26 年度の事業運営に取り組んでまいりました。

平成 26 年度実績は、契約金額が **862,984,164** 円 前年度比較 **50,182,130** 円 **6.2%**増、契約件数で **21,005** 件 前年度比較 **892** 件 **4.4%**の増となりました。

配分金では、**728,275,474** 円 前年度比較 **37,200,759** 円 **5.4%**の増となり、就業率は **84.1%** でありました。

(平成 26 年度実施した主な事業)

- (1) 定時総会を平成 26 年 5 月 29 日 (木) に開催し、平成 25 年度事業報告及び収支決算並びに役員を選任について承認をいただき、平成 26 年度事業計画及び収支予算について報告しました。
- (2) 事務局の組織を見直し「企画調整担当」部門を設置し事業を推進しました。
- (3) 就業開拓員 5 人及び就業確保推進員 2 人による、事業所や一般家庭への訪問活動を行い、就業機会の拡大と会員拡大に努めました。
- (4) 国と市の補助事業である企画提案方式事業について、引き続き 4 事業を実施しました。
- (5) 住み慣れた地域での高齢者の生活をサポートするワンコインまごころサービスを引き続き実施しました。
- (6) 女性会員の増を図るため、女性会員の親睦交流を深め、女性会員のシルバーライフの充実を図ることを目的に女性会員の会「ひまわりの会」を平成 26 年 6 月 11 日 (水) に立ち上げ、6 月 20 日 (金) 世話人を含む 7 人で福岡県糸島市シルバー人材センターへ先進地視察研修を実施しました。また、10 月 29 日 (水) 「ひまわりの会」交流会を開催し 95 人の参加がありました。
- (7) 指定管理者を受けている、「さくらじま白浜温泉センター」、「市営東千石・山之口・中町自転車等駐車場」及び「すこやかランド石坂の里」を引き続き適正かつ円滑な運営に努めました。
- (8) 各地域で開催されたイベント等に参加して、シルバー人材センターのリーフレット等を配布し、また、腐葉土、ば～ば石鹸等の販売を行い、センターの PR を行いました。
- (9) 就業中の事故や就業現場に向かう途中の交通事故等が発生していることから、安全就業現場パトロールを実施しました。また、職群班及び各支部において事例を踏まえ安全就業研修会を開催するなど、安全就業の徹底と注意を喚起しました。
- (10) 平成 26 年度中において、過去 3 年間と比較して大幅に事故件数が増加したことから、「就業事故多発非常事態宣言」を発令するとともに、事故発生の分析・検証をし、新たな事故防止策について検討を行いました。事故の未然防止に取り組むために「公益社団法人鹿児島市シルバー人材センター会員の事故防止に資するための措置要領」を定めました。
- (11) 主に団塊世代の方々を対象に、就業支援セミナーを 4 回開催し、入会促進を図りました。また、就業体験を実施しました。
- (12) 入会促進とホワイトカラー職種をはじめとする就業先の開拓と、企業等とのマッチングに努めました。
- (13) 「会員・就業機会の拡大」推進を図るため、現状を分析し、戦略的取り組みや新たな取り組み等について、協議・検討を行うため、「会員・就業機会の拡大」推進ワーキンググループを設置しました。
- (14) 総務・事業・広報・安全就業推進・就業適正化の専門部会及び委員会活動、地域班・

職群班等の組織活動を展開しながら事業推進に努めました。

専門部会ごとの主な実施事業は、次のとおりです。

総務部会 同委員会

- (1) 各種活動の結果、正会員、男性 **232** 人、女性 **146** 人、合計 **378** 人、賛助会員が、個人 **20** 人、団体 **26** 社、計 **46** の入会がありました。
- (2) 入会説明会や各種講習会、地域班会等においてセンターの趣旨・理念、会員の責務等について啓発を行い、センター事業に対する理解を深めるとともに、会員の意識の高揚に努めました。
- (3) 円滑な事業運営とセンターの充実を図るため、全シ事業協会総会、九シ連絡協議会総会及び県シ連合会総会・役職員研修会に役員及び事務局職員が参加しました。
- (4) 地域班をネットワークにセンターの事業運営の概況・就業状況などの情報を会員に提供するとともに、地域班ブロック内の合同班会やレクリエーション等を通じて会員の親睦交流を促進し、会員の融和と連帯感の高揚に努めました。
- (5) 会員の就業に伴う不慮の事故に対処するため、シルバー総合保険に加入し、対応を図りました。
- (6) 会員研修会（テーマ：安全就業について）を平成 **26** 年 **9** 月 **16** 日（火）～**22** 日（月）までの **5** 日間にわたり開催し、**402** 人の参加のもと、安全就業について認識を深めました。
- (7) 地域班ブロックごとに地域公民館や公園等の剪定・清掃作業等のボランティア活動を行い、多くの会員が参加し、センターのイメージアップを図りました。
また、福祉施設への慰問等を行いました。
- (8) 各種講座（地区主催敬老会、県シ連主催セミナーほか）で、センター事業の概要説明を行いました。
- (9) 発注者・市民への要望に応えるため、職群班等の統括・ブロック長等を対象に、外部講師による接遇研修会を **11** 月 **20** 日（木）と **1** 月 **29** 日（木）**2** 回に分けて開催しました。
- (10) 市長及び副市長へ定例の業務報告及び洋上体験学習「グラスボート」事故関係の報告を行いました。
- (11) **26** 年度全シ事業協会総会で議決された決議文について、**8** 月 **21** 日（木）、鹿児島市長及び鹿児島市議会議長を訪問し、シルバー人材センターへの支援の要望をいたしました。
- (12) 女性会員の増を図るため、女性会員の親睦交流を深め、女性会員のシルバーライフの充実を図ることを目的に女性会員の会「ひまわりの会」を立ち上げました。
- (13) 「会員・就業機会の拡大」推進を図るため、現状を分析し、戦略的取り組みや新たな取り組み等について、協議・検討を行うため、「会員・就業機会の拡大」推進ワーキンググループを設置しました。
- (14) **10** 月 **23** 日（木）～**24** 日（金）、役員による先進地視察として、福岡市シルバー人材センターを訪問し、「会員の拡大」、「就業機会の拡大」及び安全就業の取り組み状況等について意見交換を行いました。
- (15) **10** 月 **30** 日（木）、相生・上郡広域シルバー人材センターがワンコインまごころサービス事業等の研修で来訪され、意見交換を行いました。
- (16) **11** 月 **19** 日（水）、さつま町シルバー人材センター、また、**3** 月 **17** 日（火）、鹿屋市シルバー人材センターが腐葉土センター事業及び安全適正就業の取り組み状況の研修で来訪され、意見交換を行い、その後、四元シルバー腐葉土センターを現場視察されました。
- (17) 事務局職員の良好な職場環境の確保と健康保持を図るため、職員の福利厚生事業を推進しました。
- (18) 職員の資質向上のため、全職員を対象に、外部講師による職員研修会（接遇・コミュニ

ケーション) を 2 月 19 日 (木) に開催しました。

事業部会 同委員会

- (1) 就業開拓員 5 人及び就業確保推進員 2 人による、事業所や一般家庭等への訪問活動を行い、就業機会の拡大と会員拡大に努めました。
- (2) 主に団塊世代の方々を対象に、就業支援セミナーを 4 回開催し、入会促進を図りました。また、就業体験を実施し、現場の就業実態を学んでもらいました。ホワイトカラー職種をはじめとする就業先の開拓と、企業等とのマッチングに努めました。
- (3) 会員の就業機会を高めるため、毎月の就業相談日 (第 2 木曜日) に事業委員会の委員がボランティアで相談を受け付け、就業機会の提供に努めました。
- (4) 女性会員の増を図るため、女性会員の親睦交流を深め、女性会員のシルバーライフの充実を図ることを目的に女性会員の会「ひまわりの会」を平成 26 年 6 月 11 日 (水) に立ち上げ、6 月 20 日 (金) 世話人を含む 7 人で福岡県糸島市シルバー人材センターへ先進地視察研修を実施し意見交換等を行いました。また、のぼり旗を作成し、おはらまつりに参加し PR を行いました。
- (5) 「会員・就業機会の拡大」推進を図るため、現状を分析し、戦略的取り組みや新たな取り組み等について協議・検討を行うため、「会員・就業機会の拡大」推進ワーキンググループを設置しました。
- (6) 年末物品販売では、本部・支部会員手作りの「桜島小みかん・乾燥しいたけ・米・からいも・そば粉・ば〜ば石鹼・腐葉土等」と伊佐市シルバー人材センターの協力による「竹酢液・脱臭剤」の販売を行いました。
- (7) アンテナショップ「おじゃったもんせ」で会員手作りの新鮮な野菜や手芸品、腐葉土とば〜ば石鹼等の販売を行いました。
- (8) 企画提案方式事業「シルバー学舎 (がっしゃ)」では「ほほえみサロン」を桜島フェリーターミナル 2 階に開設し、市民・会員の交流の場として各種講座を開催しました。山形屋「天文館ベルク広場」では、「昔遊び教室」を開催しました。また、各地域で開催されたイベント等に参加して、シルバー人材センターのリーフレット等を配布し、腐葉土、ば〜ば石鹼等の販売を行い、センターの PR を行いました。
- (9) 企画提案方式事業「やさしか、うれしか、あったかサービス」では住み慣れた地域での高齢者の生活をサポートする、ワンコインまごころサービスを実施しました。
- (10) 企画提案方式事業「んだもしたん エコ森事業」では吉田・桜島・松元のシルバー腐葉土センターにおいて腐葉土を製造し販売を行いました。その他、廃油を利用した石鹼づくり教室やガーデニング教室を開催し、多くの市民の参加のもと好評を得ました。
- (11) 企画提案方式事業「いこかい ひっとべ 学び舎 知る場」では小学生親子を対象にした、グラスボートによる桜島洋上体験学習を開催しました。
- (12) 指定管理を受けている、「さくらじま白浜温泉センター」、「市営東千石・山之口・中町自転車等駐車場」、及び「すこやかランド石坂の里」の適正管理に努めました。
- (13) 職群班においては、ブロック長会議・班会を定期的に開催し、安全就業・健康管理の徹底、情報交換、研修等を促進し、組織運営の充実に努めました。
- (14) 子育て支援では、保健センターでの案内補助のボランティア活動を行いました。また、専門の講師によるおかし作り教室等を行うとともに会員研修では救急法について学びました。
- (15) 生活支援サービスでは、外部講師を招き認知症予防講座を開催し、実務的な知識を学びました。
- (16) 賛助会員の入会促進に努めました。
- (17) 就業開拓と就業機会確保のために報奨金制度を行いました。

(18) 就業機会の多様化のため、一般労働者派遣事業を行いました。

広報部会 同委員会

- (1) センターのリーフレットを市内各支所、校区公民館、高齢者福祉センター、地域公民館等 80 か所に約 2,950 部備え付けました。また、就業開拓員及び就業確保推進員が携行して就業開拓に活用しました。
女性会員の加入促進及び生活支援サービスの就業開拓においても、リーフレット等により、普及啓発に努めました。
- (2) 年末には就業会員及び職員が、主な発注者にカレンダーを携行し、御礼と継続発注のお願いを兼ねて訪問しました。
- (3) 市広報紙「市民のひろば」、民間情報誌にセンター事業及び就業支援セミナーを紹介し、会員加入の促進及び就業開拓に努めました。
- (4) 10月1日(水)～10月7日(火)まで、山形屋3階のブリッジギャラリーにおいて、会員45人の作品104点及びセンター事業の概要を展示紹介し広報に努めました。
- (5) 10月の普及啓発促進月間には、横断幕をセンター庁舎に掲示したほか、センターのトラックの車体に横断幕を掲示し、センターの紹介と広報に努めました。
- (6) 各地域で開催されるイベント等で、センターのリーフレット及び入会申込書、就業支援セミナー開催のチラシを約1,050部配布し、広く市民の方々にPRし、センター事業の広報に努めました。
- (7) ボランティア活動やグループ就業時に、のぼり旗を掲出して広報に努めたほか、センターのジャンパー・帽子・エプロン等を着用して広報の一助としました。
- (8) 各種イベントやセンター事業の情報を報道機関へ提供しました。
- (9) シルバー人材センターの趣旨・目的・理念・仕事の流れ、会員互助会の目的等を掲載した「会員のしおり」を作成し、研修教材等に活用しました。
- (10) センターの会報「かごしまシルバーだより」第63号(26年4月)及び第64号(26年10月)を発行し、全会員へ情報を提供しました。
- (11) 毎月1日(10月を除く)に、「天保山通信」を発行し、役員・地域班・職群班長へセンター事業実績、行事等をお知らせしました。
- (12) 「会員募集中」等の、のぼり旗をセンター周辺に掲出して広報に努めました。
- (13) センターのホームページに「ワンコインまごころサービス」、「アンテナショップ おじゃったもんせ」、「ほほえみサロン」、「就業支援セミナー」、「企画提案方式事業各種講座」等を紹介するなど、市民の方々にセンターへの理解と利用が図られるようにしました。
- (14) ホームページとセンター庁舎内掲示板に「就業募集の案内」を掲示し、就業機会の拡大についての広報に努めました。
- (15) 11月3日(月)「おはら祭り」に踊り連として会員及び職員計90人で参加し、センター活動の啓発に努めました。

安全対策部会 安全就業推進委員会

- (1) 会員の事故防止施策として、職群班及び各支部において事例を踏まえ安全就業研修会を開催するなど安全対策に取り組み、「かごしまシルバーだより」第63号(平成26年4月発行)では「気をつけよう 無理と油断が事故のもと」をスローガンとして掲げ呼びかけました。
- (2) 安全就業を最も重要事項、基本柱としていることから、全会員を対象に地域班合同班会開催時並びに会員互助会旅行時に安全就業についての講習を行い、安全就業等の周知徹底を図りました。受講者数は1,200人で、受講率は50.4%、平成25年度の受講率と比較して2.8%増でありました。

- (3) 会員の健康管理及び安全意識の啓発にあたっては、安全講習会をはじめ各種講習会において周知に努めるとともに、定時総会等の会場に安全に関する標語を掲示して安全意識の高揚に努めました。また、健康診断受診報告書の提出方を要請することで、会員の健康診断受診を高めることにより、健康の維持管理を推進しました。
- (4) 安全意識の高揚につなげるため、安全就業に関する標語を募集し、**86** 点の応募があり、厳正な審査を行い、次の会員の作品が選ばれました。
「最優秀賞」徳田 修会員 標語：「まさかより もしもで防ごう 危険予知」
「優秀賞」 湯田昭夫会員、町田和海会員、向井重則会員、川田勲会員、豊田義孝会員
最優秀賞の標語は、平成 **27** 年度のスローガンとすることに決定しました。
- (5) 就業現場の作業箇所の点検・指導等については、安全就業推進委員会委員が安全就業現場パトロールを **5** 回実施し、機械器具の使用上の注意や作業場の留意事項等について指導を行い、事故防止に対する意識の高揚を図りました。
- (6) 事故防止を最優先の課題として事業の推進に取り組み、安全就業の徹底を図ってまいりました。平成 **26** 年度の事故件数は、傷害 **16** 件、賠償 **25** 件、合計 **41** 件でした。
- (7) 事故の多発に伴い、全会員に安全意識の徹底を図るため、平成 **26** 年 **10** 月 **1** 日に「事故多発非常事態宣言」を発令しました。
- (8) 事故の多発に伴い、平成 **26** 年 **12** 月 **8** 日に「各職群班統括班長等安全研修会」を開催し、安全就業について注意を喚起しました。
- (9) 部会 委員会を **9** 回開催し、事故発生の分析・検証をし、新たな事故防止策について検討を行いました。その中で、他都市のセンターの安全就業対策等の調査研究を実施し、その実例を参考としながら効果的な方法等について協議を行い、会員の事故の未然防止を目的に「公益社団法人鹿児島市シルバー人材センター会員の事故防止に資するための措置要領(案)」として集約しました。
- (10) 事故防止マニュアル及び事故対応マニュアルを見直し作成し、関係会員に配布しました。
- (11) 「安全作業中」の、のぼり旗を掲示して注意を喚起しました。

就業適正化部会 同委員会

シルバー人材センターの就業は、「臨時的かつ短期的な就業又はその他の軽易な業務にかかる就業」であることを踏まえながら、センターの基本理念である「自主・自立、共働・共助」の精神を持って適正就業の推進と充実を図ってまいりました。

- (1) 平成 **26** 年度も引き続き「ゆずりあう 心・笑顔の適正就業」をスローガンに適正就業を推進しました。
- (2) 会員に対しては職群班の駐輪・駐車班、公園清掃班、墓地清掃班、運搬班を通じて適正就業の意識が広く浸透するよう周知を行い、推進を行ってまいりました。
- (3) 各支部においても公共等の就業を中心に適正就業を推進しました。
- (4) 駐輪・駐車班及び公園清掃班並びに墓地清掃班の就業期間満了の会員の方には職群統括班長・ブロック長より就業期間満了通知を行いました。
- (5) 就業期間満了に伴う、対象者の就業交代時の就業相談を行いました。
- (6) 公園清掃や墓地清掃及びその他の職種の就業会員の募集をホームページや庁舎内の掲示板に掲示し、多くの会員へ募集を行いました。

総 括

1. 就業の開拓及び会員確保を図るため、推進体制の整備とスタッフを配置し、社会のニーズに対応した新規事業の掘り起こしを進めるとともに、就業率の向上を図ります。
2. シルバー人材センター事業の普及啓発促進と会員の資質の向上を図り、市民の信頼に応えてまいります。
3. 「自主・自立、共働・共助」の基本理念のもと、「適正就業に関する基準」に基づき適正就業を推進してまいります。
4. センター事業の経費節減に努め、また、事務改善、事務効率化へ向け努力していくとともに、事務部門における会員活用を図ってまいります。
5. 独自事業の更なる推進を図ってまいります。